

8月の植物

カワラナデシコ ナデシコ科ナデシコ属

(学名 : *Dianthus superbis* L. var. *longicalycinus* (Maxim.) F.N.Williams)

山野の草地で見ることができるピンク色の可憐な花である。カワラナデシコは昔から親しまれている秋の七草のひとつ。春の七草は食用であるが、秋の七草は観賞用がほとんどである。薬草として用いられるものも多い。

カワラナデシコにはヤマトナデシコの別名もあるが、その別名は日本の女性美とされる大和撫子のことではなく、中国から渡来したカラナデシコと区別するため、日本産のナデシコということから名付けられたと言われている。

カワラナデシコの生育環境は日当たりの良い草原である。昔から草原は野焼きや採草地等、人による利用や管理で維持されてきた二次的な自然環境である。草原は人手が加わらなくなると自然遷移(草原→低木林→森林と変化すること)によりその環境を保つことができない。現在、農業形態や生活スタイルの変化に伴い、草原など里地里山の環境が減少傾向にある。そのため県内でカワラナデシコに出会える場所は限られてきているものの、唐津市七山の檜原湿原や天山、嬉野市の大野原草原で出会うことが出来る。

(伊藤幸子)



(撮影 : 伊藤 幸子)

(参考文献) 佐賀の野草(下)、ポケット版佐賀の薬草、学生や市民のための生物多様性読本